

年少組「かくれんぼ から かたちバスケット へ」

～かくれた場での年少組幼児たちの気づき・発想の広がりを大切にしたい探究活動～

年少組

こいぬ組 20名 (男児 10名・女児 10名) 教諭 A 10年目・教諭 B 3年目

うさぎ組 21名 (男児 11名・女児 10名) 教諭 C 6年目・教諭 D 3年目

こぐま組 17名 (男児 9名・女児 8名) 教諭 E 27年目・教諭 F 11年目

年少組では、「かくれんぼ遊びにおける幼児の探究活動やその展開」の取り組みで、年長組、年中組からのクイズ出題を受けるにあたり、次のように探究活動の計画をしました。

【年少組の活動展開予定】

- 1) 自由遊びやクラス活動でかくれんぼを楽しみながら「見つかりにくい場所」を探す
- 2) かくれ場所の景色・特徴「色・形・感触・体感」などに気づく
- 3) 気づいたことを発表し合って共有する
- 4) 年長組・年中組からのクイズに答える
 - ①知っていることを発表する
 - ②わからないことに興味をもち知ろうとする

当初、学年では上記「4) ②」が年少組として探究活動につなげやすいと考えていました。そのため、予定通りかくれんぼを繰り返し楽しむ中で、特に「2)」の気づきを促す働きかけを強めていました。しかし、帰りの会（一日の振り返りの会）で、「3)」をおこなったところ、中でも「かくれた場所から見えた色・形」の共有が活発な話し合いとなり、「②わからないことに興味をもち知ろうとする」姿、意欲が芽生えてきていると理解したため、4)を待たずに別枠で年少独自の取り組みを始めることとしました。

【年少組の活動展開予定】改定 1

- I) 「いろ・かたち探しゲーム」で色・形への興味を更に広げ、どこにあるか探す
- II) かくれんぼの経験を生かしながら、見えにくいところにある色・形にも気づく
- III) 「教師と幼児」、「幼児同士」、「クラス」、「学年」でかかわりやつながりを広げる
- IV) 学年で経験を共有し、進級後の新クラスでも共通の遊び（安心材料）につなげる

1月30日「いろ探しゲーム（園庭・学年活動）」

「IV)」につなげられるよう学級を越え、事前に製作した「鬼のお面（自分で選んだ赤・青・緑・オレンジ色）」の色別チームで仲間意識をもち、その「鬼のお面」をかぶりながら園庭で同じ色を探し、教師に伝える活動をしました。

すると、生き生きと意欲的に探す姿がたくさん見られました。目につきやすい同じ物の色の発見が多かったですが、事前に「II)」を働きかけていたこともあって、掲示板のポスターの色、チューリップ鉢札の色、友達が身につけている物の色、中には空の色を見つけ出すという姿もありました。その活動後には学年で振り返りをおこない、気づきを発表、共有し合い、更なる意欲へとつなげることができました。

(赤 37・青 37・緑 33・オレンジ 27 発見)

土橋先生より、色を見つけて個人的に教師に伝えるよさと問題点、改善点について、また、幼児を待たせることなく同時並行で一人ひとりの気づきを認め、満足につなげられる「みつけたシール」などの助言をいただきました。

それを踏まえ、学年では次の活動にシールを取り入れ、教師の個別対応を待たずに幼児一人ひとりがわくわくする気持ちを持続しながら探すことを可能にしていこうと考えました。



2月4日「かたち探しゲーム（各保育室・学級活動）」

かくれんぼから派生した「〇〇探しゲーム」の第二弾として、また、「IV）」の実現への導入となることを見据えて「かたち探しゲーム」をおこないました。

形は幼児たちに親しみのある〇、△、□とし、混乱をふせぐため視覚的に確認もし合った後に、保育室内限定で実施しました。

・見つけたら同じ形のシールを貼り、個別対応を必要としないことがスムーズさにつながり、〇、△、□の形を含む遊具も多いことから、一人ひとりがたくさん見つけることもでき、大きな満足感へとつながりました。（こいぬ組）

・形を描いたチケットを配る時に一度廊下に出てリセットし、それを手元で見られることが理解の補助にもなり、生き生きと取り組んでいました。中にはアルファベット A の中にも△があることを見つけた幼児もいました。（うさぎ組）

・形を示しながらそれぞれの角の数を数え合ったところ、想定以上に活動内容への理解が早まり、一人ひとりがとても意欲的に取り組むことができました。そのため、3種類それぞれ探す時間を2巡しました。（こぐま組）

活動後の振り返りで、発見したものを発表、共有し合うと、その後の自由遊びの中で、形探しゲームの再現をしたり、お絵描きや粘土の〇、△、□の型を使って構成遊びをしたり、形への興味を更に広げる姿も見られました。

土橋先生より、視覚的な導入の工夫、形を発見した時のシールが〇、△、□と対応してわかりやすかったことへの評価、気づきを発表し合う場面では一人ひとりが参加している意識をもてるよう輪になるとよいという助言をいただきました。

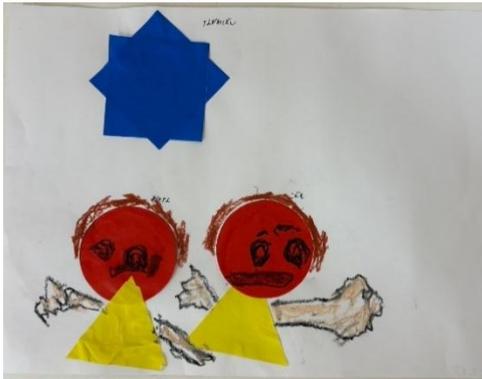
それを踏まえ、共有時には輪になって発表する方法を取り入れ大切に扱っていくこと、本時の活動を通して幼児の形への興味が高まりや広がりを見せていることをとらえたため機会を逃さず展開させていこうと確認し合いました。



2月17日「〇△□の構成画・画用紙上（各保育室・学級活動）」

「形探しゲーム」の経験後の形への興味の高まりを受け、白画用紙上で、用意した赤〇、黄△、青□の折紙を、自由に構成しながら見立てる構成画をおこないました。

導入時に、形同士を組み合わせるいろいろな構成ができることを示し、自由な取り組みを促したところ、「△と□で家」、「△と△でちょうちょ」など、構成しや見立てを楽しむ姿の一方で、「赤〇1枚でおひさま」で構成に至らない、「赤〇2枚の雪だるま」や「青□2枚の星」、その他にも、「イメージ具現化のために折って使う」など、



色に強く影響を受け、色に違和感が生じ、自由な発想がしづらくなっている様子も散見されました。

その後、クレパスでイメージを描き足した構成画を見せながら発表、共有をし合い、形に触れて遊んだ満足感を味わい合いました。

土橋先生より、形に色があることの効果と本時における問題点、また、色、大きさ、素材、場の改善策について助言をいただきました。

それを踏まえ、色に左右されずに自由な発想を引き出すために、形を単色にすること、また背景を黒・紺、形を白・ベージュなどにすること、そして、のりを使わずにマグネットボード上で構成を楽しめるようにすることができるよう準備を進めることを話し合い自由遊びに取り入れ始、「Ⅲ」Ⅳ)への展開「かたちバスケット(○△□☆◇)(ホール・学年活動)」も取り組み始めていくこととしました。

2月19日より「○△□の構成画・マグネットボード上(各保育室・自由遊び)」

画用紙上でおこなった「○△□の構成画」でイメージしにくかった部分を自由な発想、その具現化につなげられるよう、自立の黒いマグネットボード上に、白○、△、□などのマグネットを貼れるよう、自由に構成しながら見立てられる環境を用意しました。

画用紙上での構成画の経験から興味を示し、すぐに取り組み始める幼児がいました。その様子が瞬時に共有されるため、他児へ興味が広がり、刺激をし合い、構成したものや言葉でイメージを共有しながら構成や再構成を楽しみ、発想、イメージの具現化に満足する様子がたくさん見られました。(恐竜が餌を食べる・ロケットが宇宙に出発など)



土橋先生より(2月27日)、改良点のよい作用について評価していただきました。

3月6日「かたちバスケット(ホール・学年活動)」

「Ⅲ」Ⅳ)への展開として、「かたちバスケット(○△□☆◇)(ホール・学年活動)」



に2月18日より取り組んできました。

事前に出会い、触れ、思考し、試行しながら親しんできた形を使って、学年全員で共通のルールで楽しみ合ってきました。

この経験を進級新クラスでも再現できることが、安心材料の一つとなることを期待しています。また、年少児なりに思考し、試行し、発表することをたくさん積み重ねてきた力も、次学年で発揮されることを願っています。

終わりに、学年として、白百合女子大学准教授 土橋久美子先生に教育活動を5回にわたり参観、評価、助言をいただけたことが、教師にとっても探究活動となりました。問題点、改善点に気づけないまま自己満足せず、よい取り組みになったと思います。